

# 茨城いのちの電話

つくば（相談電話）  
029・855・1000



水戸（相談電話）  
029・350・1000



2022年12月  
第106号

特集：家族 その4	
スクールカウンセリングの中で見られる親子の姿 …	2～4
受信状況 ……………	4
講演会のお知らせ ……………	5
ご支援ありがとうございます ……………	6～7
コラム ……………	8

当時原野であったこの地域を明治期の実業家神谷傳兵衛が開墾し、国産ワインの製造を試みました。敷地内には120年の歴史を感じさせる赤レンガの建物や庭園、レストランなどもあり、散策を楽しむ人が絶えません。

## スクールカウンセリングの中で見られる親子の姿



寺川 亜弥子（臨床心理士・公認心理師）

学齢期とは、「満6歳に達した翌日以降の最初の学年のはじめから満15歳に達した日の属する学年の終わりまで」と、学校教育法で定められています。つまり、義務教育課程（小学校・中学校）に相当する時期です。発達段階では、児童期から青年期の入り口（あるいは思春期の前半）に当たります。子どもから大人の入り口まで、といったところでしょうか。私は普段、小・中学校と高等学校でスクールカウンセラーとして仕事をしていますので、まさに学齢期と、学齢期を過ぎたところにいる子どもたちとかわっていることとなります。

学齢期の間に、子どもたちは心身共に大きく成長します。学齢期の入り口、つまり小学校に入学したころは、無邪気で素直な小さな子ですが、中学校を卒業するころには体が大きく成長し、親の背丈を超える子もいます。見た目にも大人びてきますし、体力もついてきます。また様々なことを体験し感じていく中で、自分なりの価値観や考え方を身に着けていきます。時には親や世間の価値観とぶつかり、反発することも。成熟の過程にあり、自分とは一体何者なのか、と自問し始める頃でもあります。学齢期の出口にいる子どもはもう、無邪気で素直なだけではいられなくなっているものです。

ところが、学齢期の子どもを育てている大人（親）は時に、そういった子どもの成長と変化に、戸惑ったりついていけなかったりすることがあるようです。子どもは少しずつ親離れをして、自分の世界を持つようとしているのに、親から見ると子どもはまだまだ手のかかる存在。失敗したらかわいそうだし、失敗しないように親がしっかり導いてあげなければ…と考えているように見受けられる親御さんに、学校の相談室で出会うことがあります。

例えば。不登校状態にあるお子さんの親御さんはしばしば、はじめのうち子どもが嫌がっても強制的に学校に行かせようとし、学校に行けずにいる子どもを責めることがあります。不登校状態が長期に渡ると、多くの親御さんはやがて無理強いすることの無意味さを悟り、登校できないわが子を受け入れ、皆と同じように学校に通うだけが人生ではない、と考えられるようになります。ところがその中でたまに、「普通に学校に通うだけが全てではないですよ。」と言い、続けて「通信制でもフリースクールでも、どんな場所でもいいのです。とにかくこの子にとって一番良い場所を私が見つけてあげないと。」という主旨のことをおっしゃる方がいるのです。学校に行くこと（だけ）が最善である、というこだわりからは抜け出したのに、今度は、どこかにあるはずの最善の道を親が探してあげて子どもをそこに導いてあげるべき、というこだわりにとらわれてしまっていないでしょうか。「あれ、一周回って元の所じゃない？」と、私は複雑な思いに駆られてしまうのです。

子どもの幸せを願い、子どものために手助けをしたいと考える親御さんの思いは当然のものであり、それ自体が悪いわけではありません。けれども、お子さん本人が学校の次のステップを考え始める前に、先回りして「最善の場所」を探し、そこへの道を整えてあげようとしているのだとしたら、子どもは結局、用意されたレールの上を進むことにならないでしょうか。そして、「学校には行けなくてもいいのだよ。でもここならあなたに合うはずだから、行きましょね。」と、親が用意したその「最善の場所」に最短で適応することを期待されることになるのではないのでしょうか。それでは、学校に行かないことを許されないのと、本質的にはあまり変わらないのではないかと一。そんなことを考えてしまいます。

学校の相談室では、子どもたちから親との関係についての話を聴くことも多くあります。親に対する不平や不満を語る子、心配をかけたくなくて困っていることを親に打ち明けられない子、親に反発する一方で甘えたい様子も見せる子など、様々な内容があります。そのような中でどの子どもにも共通しているのは、「親に認められたい」「ありのままの自分を受け入れてもらいたい」という思いです。特に、思春期に入る小学校高学年から中学生は、友達や先生など、家族以外の様々な人々とのかかわりを通して、自分の家族にとっての当たり前が世間の当たり前とは一致しないことがある、ということに気付くようになります。また色々な経験を通して自分の感じ方や考え方、価値観を獲得していく時期でもあります。親とは異なる価値観を持つようになること、自立したい欲求が出てくることから、反抗的な態度になることがあるでしょう。ところが自分なりの考え方が育ってきても、発達途上の子どもたちには、自分の考えや気持ちを十分に言葉で表現することもできないということが往々にしてあります。成長期の体と心の不安定さから来るイライラした気持ちと相まって、感情的な言動を取ってしまうというのありがちなことです。実は思春期の子供たちは、そんな自分を持って余し、罪悪感を抱いていることもあるのですが、「素直じゃない」態度を取られたら、親の方もむっとなったり腹が立ったりすることもあるかと思えます。けれどもそこで子どもの「素直じゃない」態度を責めても、それで子どもの反抗が治まるわけではありません。むしろますます反発する態度に出ることが多いのではないのでしょうか。

小学校高学年から中学生辺りで、あれこれ口出しをしたり世話を焼こうとしたりする親に対し、「うるさい」「放っておいてよ」などと子どもが言い出したら、反抗期到来かもしれません。順調に成長している証と考えても良いかと思えます。ところが時々、いつまでたっても親に従順で何でも親任せのままなお子さんがあります。あるいは、反発心はあっても親に逆らうことができずに、鬱屈する子どももいます。前者は、快適すぎて自立しそびれているように見えますし、後者は、親が怒ったり悲しんだりすることを恐れて何も言えな

くなっているように思われます。

思春期の自立がうまくいくかどうかは、その時だけの問題ではなく、小さいころからの積み重ねの結果でしょう。例えば、挑戦してみて失敗した時には、怒ったりやっぱ無理だからやってあげようとしたりするよりも、挑戦した勇気を認め、次につながるにはどうしたら良いかを一緒に考えてみる。その方が、次も挑戦しようという気持ちになるでしょうし、課題を乗り越えるための方法を考えることにつながりそうです。またできることが増えてきたら少しずつ本人に任せてみると、自分で考え行動することに自信を持てるようになっていくでしょう。一方、親がやってあげてしまった方が早いしお互い楽なこともあるかもしれませんが、でもそれでは、いつまでたっても自立に向けた次のステップに進めないのではないのでしょうか。またできなかったことにばかり注目されたり、できなかったことを否定的に評価されたりすると、子どもは失敗を恐れ、挑戦する勇気を失ってしまうかもしれません。そうすると、いつまでたっても、自分で決断し行動することができないことになりそうです。

親が子どもに寄せる期待も、程良さが求められることのひとつです。一切期待されなかったら、子どもは自分が大切に思われている実感が持てなくなるでしょうし、「どうせ自分なんて…」と投げやりになってしまうかもしれません。ところが、期待され過ぎるというのもまた、困りものです。子どもとしては親に期待されればうれしいですから、期待に応えようと頑張ります。一生懸命頑張って出した結果に対し、「よく頑張ったね」と褒めてもらえたら頑張った甲斐があるのですが、「そのくらいあなたならできて当然だ」という態度を親に取られたらどうでしょうか。頑張っへへとへとに疲れているのに、「次も」とか「もっと」とか期待されたら、息切れしてしまいそうです。どんなに頑張っても親が満足してくれないと感じると、子どもが自分自身に満足できない状態に陥ることもあります。その結果、周りから見たら十分に素晴らしい子なのに、本人には全くいいところがないと感じるようになってしまうかもしれません。期待するからこそその励ましが、子どもを追い詰めてしまうこともあるようです。

ところで、親子関係に限ったことではないのですが、困ったり心配になったり腹が立ったりすると、つい、ネガティブなことにばかり目が向いてしまいがちです。カウンセリングの中で私は、クライアントにちょっと立ち止まって何かポジティブなものはないか探してみることを勧めることがよくあります。親子関係の問題なら、子どもたちには親に対する様々な思いを聴いた後で、「ところでお父さんやお母さんの良いところは何かある?」と。保護者には、お子さんについての心配や親としての心配などを伺った後で、「ところでお子さんの頑張っているところやセールスポイントは何ですか?」と質問してみるのです。すると、そういえばこんなところが…と、家族の良いところを教えてくれることが多いですし、少なくとも新たな視点で家族のことを見つめるきっかけにはなります。



親は子どもを心配し幸せな人生を歩んで欲しいと思うからこそ、つい口出しをしてしまうものですし、子どもは親から自立し認められたいと同時に甘えたい気持ちもあるから、つい反発してしまう。だから程よいタイミングでポジティブな側面にも注目できるように水を向けてみると、親も子どもも家族の大切さを思い出すのです。家族のストーリーがネガティブな要素だけで出来ているということは、そんなにありません。なんだかんだ言って結局は、親も子どもお互いに大切に思い合っているのでしょう。それが見えなくなって、相手に対する不満や心配が大きくなり、互いの気持ちに行き違いが生じると、大きな問題に発展するのかもしれない。こじれた家族の物語を聴きその成長を見守る過程は、掛け違えたボタンを一度外して止め直す作業に似ているように思います。

## 受信状況

1985年6月1日～2022年9月末現在

総受信件数

**983,502 件**

うち当期受信件数

(2022年4月1日～2022年9月末現在)

**6,453 件**

男 3,162 件 女 3,291 件

(自殺傾向 男 273 女 421 計 694)

フリーダイヤル受信状況		男 (自殺傾向)	女 (自殺傾向)	受信件数
2022年	4月10日	28 (6)	23 (10)	51 (16)
	5月10日	25 (6)	28 (6)	53 (12)
	6月10日	24 (4)	19 (5)	43 (9)
	7月10日	27 (5)	16 (5)	43 (10)
	8月10日	15 (2)	24 (10)	39 (12)
	9月10日	32 (7)	15 (8)	47 (15)
22年4月～22年9月合計		151 (30)	125 (44)	276 (74)

毎日フリーダイヤル受信状況		男 (自殺傾向)	女 (自殺傾向)	受信件数
2022年	4月	113 (29)	116 (25)	229 (54)
	5月	104 (25)	117 (34)	221 (59)
	6月	93 (21)	101 (33)	194 (54)
	7月	94 (20)	127 (30)	221 (50)
	8月	105 (26)	132 (29)	237 (55)
	9月	87 (21)	120 (30)	207 (51)
22年4月～22年9月合計		596 (142)	713 (181)	1,309 (323)

## 講演会

# ひきこもりの高齢化と対話的支援

講師 筑波大学教授 齋藤 環 先生

茨城いのちの電話の水戸分室は今年で開設から30年を迎えます。

開設以来、茨城いのちの電話はつくばと水戸で24時間体制を基本に毎日電話を受けてきました。多くの方々からの温かいご支援ご理解に支えられて活動を続けてこられたことを、心から感謝申し上げます。

茨城いのちの電話では、この節目に水戸市在住の精神科医齋藤環先生による講演会「ひきこもりの高齢化と対話的支援」を茨城県立図書館で開催します。

引きこもり状態にある人は15～39歳の54万人に対し、40～60歳では61万人といわれています（平成30年度内閣府調査）。いわゆる「8050問題」をはじめ、家族の孤立、孤独、生活困窮者の増加等、もはや他人事とはいえない問題もたくさんあります。一方でひきこもりに対する誤解や偏見があることも事実です。こうした問題を一緒に考えていただく機会のひとつになればと企画いたしました。ご参加をお待ちしています。

厚生労働省 自殺予防対策補助事業

## ひきこもりの高齢化と対話的支援

2022年  
12/11(日) AM 10:00～11:45  
(開場は30分前)

会場 茨城県立図書館 視聴覚ホール (先着160名)  
できるだけ公共交通機関を御利用願います。  
お車の方は、三の丸庁舎(旧県庁舎) 駐車場を御利用ください。

講師 筑波大学教授 齋藤 環 先生

1961年、岩手県生まれ。1990年、筑波大学医学専門学群 環境生態学 卒業。医学博士。爽風会佐々木病院精神科診療部長(1987年より勤務)を経て、2013年より筑波大学医学医療系社会精神保健学教授。日本思春期学会理事、日本病跡学会理事。2021年より公益社団法人青少年健康センター会長。専門は思春期・青年期の精神病理、精神療法、および病跡学。

参加方法 オンラインでの参加もできます。

参加費 無料

お問い合わせ 茨城いのちの電話 水戸事務局  
〒310-0851 水戸市千波町1918  
☎ 029-244-4722 (平日12:00～16:00)  
☎ 029-350-1055  
📠 講演当日の連絡先 070-4000-1484

くわしくは 茨城いのちの電話 🔍

申し込み方法  
○ 会場へはご自由にご来場できます。  
○ オンラインをご希望の方は事前予約が必要です。下のインターネット告知サイトかQRコードでお申し込みください。  
[https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_jI3lGzVITpOhDYarig2E3Q](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_jI3lGzVITpOhDYarig2E3Q)



主催 社会福祉法人 茨城いのちの電話 共催 茨城県立図書館 後援 茨城県・茨城新聞社  
オンライン配信には、関彰商事(株)のご協力をいただきました。

【日時】2022年12月11日(日)  
10:00～11:45(開場は30分前)

【会場】茨城県立図書館 視聴覚ホール  
(先着160名)  
お車の方は、三の丸庁舎(旧県庁舎)  
駐車場を御利用ください。

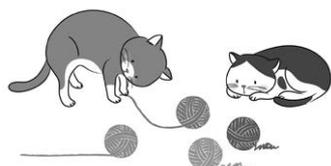
【参加方法】会場にご自由にご来場ください。

【参加費】無料

オンラインでの参加も可能ですが、  
事前予約が必要です。  
下記のインターネット告知サイトか、  
QRコードからお申し込みください。



[https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_jI3lGzVITpOhDYarig2E3Q](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_jI3lGzVITpOhDYarig2E3Q)



### 【お問い合わせ】

茨城いのちの電話 水戸事務局 〒310-0851 水戸市千波町1918  
TEL. 029-244-4722 (平日12:00～16:00) FAX. 029-350-1055  
講演当日の連絡先 070-4000-1484

## きれいは、きたない 相談の未来 (その2)



開き直る (HN) 開くは体の前面が世界に対して開かれるイメージで閉じる時の何か守ってるものが消し去られて、どうでもいい状態、直るは元に戻るだが弁証法的に一周り進んでいる。すなわち吹っ切れて世界に対峙できる様子。相談を通じて、そういう地平に至るのは話し、守り縮こまるものを放し聴きとられることで自分の内の言葉は外へ放出され体内は言語未満の原初状態 (平塚らいてう言う女性が太陽だったところ) へと帰りつく帰りだけでも新たな地平だ。太陽のように世界に開かれる。言い換えればそれは深層であり層を潜っていけば、数十億年前、無生物が生物へと進化した時へ辿り着く。その時我々は何を感じていたかに。それがいい人でなくてはならないなんていう文化的刷り込みから解放されてないと HN には至れない。人を受容するなんてありえない。多層な人の、どの層を受容するかだ。フロイトは、無意識に抑圧するという。人類は、言葉を得て以来メジャーな価値ばかりを目指してきた。善、勝利、幸福、神、天国、上、支配、金、成功、名誉、誇り、高貴、DOING……HN は、それらから抑圧されたものどもの反乱だ。底の底にあるものへの信頼と覚悟でできている。それは BEING に連なる。ただ多層のどこにいて、どこをめざすかは個々人の自由勝手だ。きれいはきたないのマクベスなら王を殺しても HN できずに、きたないはきたないの善人すなわち小悪人のまま自滅するじゃ。HN なら、ちんけに王になるんじやのうて大悪人となって王制をぶち壊してみせろや。映画レオン、ビューティフルデイは、共に男が少女を救い出す話だが、同行二人となり、少女が男を救いもする。ラスト、レオンでは、命とは何かについて、ビューティフルデイでは、自殺念慮の男の人生とは何かについて HN が起きる、美しい。逆に HN できない人達を描いたルサンチマン的映画を好む人も多い。道、天井桟敷の人々、とかね。ルサンチマンは、敗者が勝者をうらんで引きずり降ろそうとするが、HN は、敗者が降りていることに満ち足りている。勝者なぞ眼中にない。だから、それは敗ですらない。勝敗なんて世間が決めた価値に個は従う必要なんてない。

千年後相談は、どうなっとるじゃろう。①なくなってる。②千年前の基礎があってこそ今だよ。③千年前は、あんな相談だったんだね。無知って恐ろしいね。心理学なんて心に理があるなんて勘違いしてたんだしね。理とはボールがどういう法則に従って飛んでいくかを言う。貴方の心は、どんな法則だって突き破って宇宙誕生以来、誰も何物も体験したことのない初めての動きを今そして時々刻々生み出しうるんじやから。3つのうちどれかは低知能な現代の我らにゃあ、わかんねえ。ぽにゃども、いろんな可能性に満ちた未来は楽しみじゃな。それにつけても一番きれいできたないもんは言葉じゃと。万年後人類が生きてるとしたら滅びてるとしたら共に言葉のせいであつことは間違えねえ。しかも言葉以外のもの前じゃ言葉なんて、まだできて間もないし取るに足んねえもんなんに、人間界で支配的にのさばってしもうたちゅうごんじやるまるぞきちゅな感じ。超えたいけれど超えられぬもん、だから超えたいんじや。みんなさまの人生がきたなくきれいであつことを祝して、最後まで読んでいただきありがとごんした。ご機嫌よう、又どこかで。

Katie

### 〈編集後記〉

超大国の気が狂ったとしか思えない独裁者によるウクライナ侵攻に始まり、安倍元首相の暗殺、それをきっかけとしたカルト集団ともいべき旧統一教会と政治家の根深い関係など、毎日のようにマスコミを賑わせています。また、世界的な原材料の高騰や急激な円安による物価高が続くなかで今年も暮れようとしています。あまり良いことがなかった2022年ですが、来たる2023年こそはコロナから解放され、明るい希望に満ちた年となるようにと願っています。(KM)

社会福祉法人  
茨城いのちの電話

発行人：幡谷浩史 編集：茨城いのちの電話広報委員会 表紙絵：岡崎祐一 題字：長野加与  
事務局：〒305-8691 茨城県筑波学園郵便局私書箱60号 TEL 029-852-8505  
ホームページ：https://www.iid.or.jp FAX 029-852-8355

この広報紙は、共同募金からの助成金で作りました。

